

令和4年度前期選抜試験

国語

注意

- 1 合図があるまでこの問題用紙は開かないこと。
- 2 解答用紙に受験番号、氏名を記入し、受験番号はマークもすること。
- 3 答えはすべて解答用紙にマークすること。
- 4 問いにあてはまる答えを^{せんたくし}選択肢より選び、該当する記号にマークすること。

例 問1にエ、問2にウ、問3にアと答えたいとき

問1	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input checked="" type="radio"/> エ
問2	<input type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input checked="" type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ
問3	<input checked="" type="radio"/> ア	<input type="radio"/> イ	<input type="radio"/> ウ	<input type="radio"/> エ

横芝敬愛高等学校

【1】次の問いに答えなさい。

問1 傍線部の慣用句の使い方が正しいものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 彼の言い訳めいた発言が、迷惑をこうむったみんなの怒りに油が乗る結果となった。
- イ 厳しい練習を続けることによって、ライバルチームに大きく水を差す実力がついた。
- ウ 情報通の人に聞いた話では、誰かが陰で釘を刺して反対運動をおおっているようだ。
- エ 静養と薬の服用の効果があり、病気は快方に向かっていると医者が太鼓判を押した。

問2 四字熟語が正しく表記されているものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 狂喜乱舞
- イ 才色兼美
- ウ 自我自賛
- エ 文武両同

問3 「案ずるより産むが易し」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 幼いときに身につけてしまった習慣を年をとってから改めることは簡単ではない。
- イ 病気は気の持ち方ひとつで良くも悪くもなるので、大丈夫だと思えることが大切だ。
- ウ 普段はさえないように見える人でも、外面を飾れば立派に見えることのとえ。
- エ 物事は実際にやってみると、前もってあれこれと心配したほどの事はないものだ。

問4 森鷗外の作品を次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 『舞姫』
- イ 『地獄変』
- ウ 『金閣寺』
- エ 『野菊の墓』

問5 次の説明に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

「あることをするのにちょうどよい時期」

- ア 塩梅あんばい
- イ 最高潮
- ウ 潮時
- エ 黄昏時たそがれ

【2】 傍線部を漢字に直したとき、最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

問6 ノウ縮還元のオレンジジュースを飲む。

ア 能 イ 脳 ウ 濃 エ 納

問7 ビルがリン立する都会の風景。

ア 林 イ 隣 ウ 臨 エ 輪

問8 理科の実験で電池をへイ列につなぐ。

ア 平 イ 並 ウ 弊 エ 併

問9 新聞記事から要点を抜スイする。

ア 推 イ 衰 ウ 垂 エ 粹

問10 交通安全を啓発するための標語を公ボする。

ア 慕 イ 募 ウ 暮 エ 墓

【3】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

食の保存法や工業化が、料理を時代とともに変えていく以前に、ひとつの食材の拡散が、料理をダイナミックに変えていく歴史がありました。その代表格が、香辛料と砂糖です。その「略歴」を振り返ってみましょう。

コシヨウやクローブ、ナツメグといった香辛料の世界的な消費量が飛躍的に増えたのは14世紀に入ってからのことです。もともとこれらの香辛料は、現在のインドネシアなどにあたる東インド諸島のごく限られた土地でのみ生育していました。15世紀に「大航海時代」の幕が開け、ヨーロッパ人は大挙して新大陸やアジアに進出していきましたが、彼らを大航海時代に駆り立てた動機のひとつが、この香辛料の需要の増大でした。

中世から近世の初めにかけて、ヨーロッパの地方の食生活は、気候による制約が多く、食べられるものは、野菜や穀物のほかには塩漬け肉、^{※1}塩乾魚などでした。塩漬け肉は、日が経つにつれて劣化するため、腐敗臭がしますが、春までは、その肉を食べなければなりません。そのため、強力な防腐剤や臭い消しが必要でした。そのため、香辛料は、冷蔵技術が未発達であった中世において、料理に欠かすことのできないものでした。香辛料には、^{※2}矯臭効果や抗菌・防腐・防虫作用があったため、大航海時代に食料を長期保存し、おいしくするためのものとして珍重されました。

香辛料は、当時「万能の薬」として、生活に大切なものでした。さらに、支配者は領民に香辛料を与えることで、自分の権威や富も維持できたため、それは国内を安定させるひとつの道具でもありました。

肉に添えられた香辛料は、口の中に刺激を与えました。その感覚は、一種の^③を呼び起こし、人々は香辛料なしではいられなくなりました。現在でも香辛料はさまざまな料理に使われ続けており、いかに人々をとりこにするかがわかります。

^⑤、そんな香辛料の需要は、17世紀頃から下降線をたどりました。さらに魅力をもつ食材が現れ「ブーム」となったからです。それが、砂糖でした。砂糖の利用は、18世紀に高まり、1750年頃には、穀物をしのぐ「ヨーロッパ貿易で最も貴重な商品」となりました。初めのうちは、お茶に入れる用途などで使われましたが、のちには砂糖を使ったお菓子やチョコレート（当時は飲みものとして楽しまれていた）が大人気となり、さらにジャムなどにも使われるようになっていきました。

チョコレート、コーヒー、茶は、原産地では苦いまま甘味料なしで飲まれていましたが、これらの飲料がヨーロッパで流行したのは、砂糖が大きなブームとなった時期と一致します。つまり、3種の飲料の飛躍的な発展に、砂糖が大きな役割を果たしたのです。日本でも長崎の出島で通常の商取引から外れた大量の砂糖が長崎街道、通称「シュガーロード」を通じて街道筋に広がっていき、各地の文化と風土を取り入れ、個性あるお

菓子が開発されていきました。

香辛料や砂糖といったそれ自体はシンプルな食材の拡散が、その土地その土地でのさまざまな飲みものや食べものの発展へとつながり、現在の私たちが食べているおいしいものへと受け継がれています。

石川伸一『「食べること」の進化史』

※1 塩乾魚 …… 塩漬けにして乾燥した魚

※2 矯臭 …… 味やにおいを引き立てたり抑えたりすること

問11 傍線部①「香辛料の需要の増大」の理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 香辛料はインドネシアなどにあたる東インド諸島のごく限られた土地でしか栽培することができなかったから。
- イ 15世紀から17世紀にかけて、ヨーロッパの人々の食生活は、主に塩漬け肉や塩乾魚に支えられていたから。
- ウ 中世以降現代にいたるまで支配階級の人々は、自分の権威や富を維持するために領民に香辛料を与えたから。
- エ 防腐作用があった香辛料は、食料を長期保存し、おいしくするために欠かすことができないものになったから。

問12 傍線部②「それ」の指示内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 塩漬け肉
- イ 香辛料
- ウ 防腐剤
- エ 支配者

問13 ③に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 安眠効果
- イ 依存症状
- ウ 幻覚作用
- エ 食欲増進

問14 傍線部④「とりこにする」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 興奮する
- イ 束縛する
- ウ 魅了する
- エ 誘惑する

問15 ⑤に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア しかし
- イ つまり
- ウ ならば
- エ そして

問16 傍線部⑥「砂糖が大きな役割を果たした」について説明したものとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア お菓子やジャムなどに砂糖が使用されて大量に作られたり、食べられたりするようになったということ。
- イ チョコレート、コーヒー、お茶に砂糖を入れることで、人々にたくさん飲まれるようになったということ。
- ウ 砂糖が穀物をしのぐ「ヨーロッパ貿易で最も貴重な商品」となり、それが大航海時代を支えたということ。
- エ チョコレート、コーヒー、茶といった飲み物が、原産地で苦いまま甘味料なしで飲まれていたということ。

問17 傍線部⑦「シンプル」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 一般
- イ 単純
- ウ 珍重
- エ 複雑

問18 本文の内容と合うものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 食品の保存法や工業化が時代とともに料理を変えていき、大航海時代の料理をダイナミックにした。
- イ 中世から近世の初めにかけてのヨーロッパの地方の食生活は、すでに現在と変わらないものだった。
- ウ 香辛料は冷蔵技術が未発達であった大航海時代に食料を長期保存するためのものとして珍重された。
- エ 日本の長崎の出島では、人々は各地の文化と風土に砂糖を取り入れ、個性あるお菓子を開発した。

【4】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

塾講師の高坂美月は、塾長の北條から頼まれて家庭教師をしている倉橋理穂の家族と一緒に天体観測に出かけた。

高速を降りて丹沢※1たんざわの山道に入ったのは午後八時。予定よりも三十分ほど遅い時刻だ。民家が途切れると、ヘッドライト以外の灯あかりはなくなり、山道は墨を流したような①で覆われた。キャンプ帰りらしき対向車と時折すれ違うが、この時刻に山へ向かう車は他に見当たらない。

「山道って少し怖いね」

と暗い車内で理穂が言い、

「へへっ。お姉ちゃんは弱虫だね」

と悠太が笑う。また他愛ない姉弟喧嘩が始まる。そんなことを繰り返しているうちにいつの間にか目的地へ着いていた。

この辺りでいいかな。と洗一が車を止めたのは道路脇の小さな空地だ。ヘッドライトをつけたまま車を降りると、巨大な杉林がすぐそこに迫っていた。針葉樹独特の爽やかな匂いを涼やかな川風が運んでくる。闇をのびやかに貫き、天の高みに向かって聳える無数の杉は神々しく、微かな溪流の音さえも彼らが吐き出す溜息のように聞こえた。

②「この先にあるキャンプ場に以前来たことがありましてね。こいつが小さい頃ですが」

洗一が闇を押しよけるような陽気な声で言う。

「ぼく、覚えてないよ」

悠太は口を尖らせながら父親の腕に掴まった。

「色々なところへ連れて行ってやってるのになあ」

北海道も沖繩も旅行したのにと洗一は残念そうに首をひねる。

「覚えていなくても、そのときの感動は悠太君の中に残っていますよ。だってこんなに情緒豊かな、いい子に育ってますもの」

美月の言葉に、そうですかね、と言いながらも洗一は嬉しそうな顔をした。子は親を映す鏡というが、理穂と悠太の父親だけあっていい人だ
③
と思う。

「ねえ、早く観測しよう」

理穂が大人ふたりの間に無邪気に割り込んだ。

よし、と洗一は言って空を見上げると、

「さあ、思う存分勉強してくれ。ここから見る空は全部おまえたちのものだ」

芝居がかった声色で大きく手を広げた。

「お父さんたら、変」

④
理穂はやれやれといった調子で肩をすくめ、悠太も「お父さん、変」とけらけら笑う。美月も思わず吹き出した。

「変とは何だ」

なあ、悠太見てみるよ、と洗一は屈んで息子の小さな肩を抱く。空を見つめる悠太の薄茶色の瞳は星の光を吸い込んだようにきらきらと輝いている。弟につられるように華奢な首をもたげた理穂は感嘆の溜息を洩らした。美月も息を呑む。

黒のベルベットにありつたけの銀の欠片を撒き散らしたような星空が広がっていた。都会の模倣とした空では到底目にするのできない輝きがそこにある。

⑤
「ねえ、先生。何で瞬く星と瞬かない星があるの」

理穂が首をもたげたまま問う。

「そうね。恒星と惑星の違いかな。後は大気の状態にもよるね。大気中に水蒸気や塵ちりが多いと光が屈折するの」
美月が北條からの受け売りを披露すると、

「星はね、泣いてるんだよ」

と悠太が無邪気な声で言った。その言葉にどきりとし、視線を悠太へ移す。

「おお、さすがに我が息子。詩人だな」

洗一が仰々しいほど※3ひょう剽けた口ぶりで褒めた。

「しじん、ってなあに」

悠太は⑦きよとんとした顔をする。子どもらしいその表情にほっとし、

「悠太君のお母さんみたいに ⑧ 人よ」

美月が微笑ほほえみながら答えると、

「お母さんは、しじん、なの」

と悠太は父親と美月とを交互に見た。

洗一は天を仰いで目を細めた。一瞬の間が空いた。

「そうだな。お母さんは詩人だな」

息子の問いに淡々と答えた。危うくこぼれそうになった感情の欠片を戻そうとして、洗一は空を見上げたのではないか。そんな気がした。

麻宮 好『月のスープのつくりかた』

※1 丹沢 … 神奈川県北西部にある山地

※2 模糊 … ぼんやりしているようす

※3 剽げる … ふざける

問19 ①に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 月

イ 霧

ウ 森

エ 闇

問20 傍線部②「この先にあるキャンプ場に以前来たことがありましてね。こいつが小さい頃ですが」で使われている表現技法として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 擬人法

イ 対句

ウ 倒置法

エ 体言止め

問21 傍線部③「洗一は嬉しそうな顔をした」とあるが、このときの洗一の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 前回、このキャンプ場に来たことを覚えていない悠太にがっかりしている。

イ 北海道や沖繩を旅行したときのたくさんの楽しい思い出に酔いしれている。

ウ 幼いときの記憶が無いのは当然だという美月の言葉に疑問を感じている。

エ 息子の悠太が情緒豊かに育っていると美月に褒められ、喜びを感じている。

問22 傍線部④「理穂はやれやれといった調子で肩をすくめ」たときの理穂の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 大げさなりアクションをする父親にあきれている。 イ おかしなことを言う父親を恥ずかしく思っている。

ウ 美月の前で勉強を強いる父親に対して反発している。 エ 悠太の話ばかりする父親と美月にいらだっている。

問23 傍線部⑤「そこ」の指示内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

ア 教室にはない野外実習の体験 イ 大好きな家族と過ごす時間

ウ 電飾に彩られた都会の景色 エ 真っ暗な山中で見上げる星空

問24 傍線部⑥「その言葉にどきりとし、視線を悠太へ移す」とあるが、このときの美月の気持ちとして最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 自分の説明が塾長の受け売りだと感づかれたことを恥ずかしく思っている。
- イ 「星が泣いている」という子どもとは思えない悠太の言葉に驚いている。
- ウ 自分の説明が不十分だったことに気づき、勉強不足を痛感している。
- エ まだ小さい悠太が高学年で学ぶ知識を持っていることに感心している。

問25 傍線部⑦「きょとん」と同じ種類のものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 今日朝から頭痛がひどくて頭がががんとしている。 イ 高校入学をわくわくしながら春休みを過ごしている。
- ウ テストの点数が発表されるときはいつもどきどきする。 エ 夕暮れの優しい風が笹の葉をさらさらと鳴らしていた。

問26 ⑧に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 言葉で上手に気持ちを表現することのできる イ たくさんの言葉を知っている国語が得意な
- ウ 文学と星の世界の両方に通じている物知りな エ お年寄りや子どもの心に寄り添った優しい

【5】 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

ねぶたしと思ひて臥したるに、蚊のほそ声に、^①わびしげに名のりて、^{※1}顔のほどに^②飛びありく。羽風さへ、^③その身のほどにあるこそ、いとにくけれ。

^{※2}きしめく車に乗りてあるく者。耳も聞かぬにやあらむといとにくし。わが乗りたるは、その車の主さへにくし。

また、^{※3}物語するに、^④さし出でて、われひとりさいまくる者。すべてさし出では、童も大人もいとにくし。あからさまに来たる子

ども・童べを見入れ^⑤らうたがりて、^{※4}をかしきもの取らせなどするに、^{※5}ならひてつねに来つつ、^{※6}ゐ入りて、^{※6}調度うち散らしたる、いとにくし。

『枕草子』
まくらのそうし

※1 名のりて … (蚊が) 鳴いて

※2 きしめく … ぎいぎいときしむ

※3 物語する … 会話する、世間話をする

※4 らうたがりて … かわいがって

※5 ならひて … 慣れて

※6 調度 … 家具や、部屋にあるいろいろな品物

問27 傍線部①「わびしげに」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 意地悪そうに イ 嬉しそうに ウ さびしそうに エ 楽しそうに

問28 傍線部②「飛びありく」の後に省略されている語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア いとにくし イ いとかなし ウ いとわろし エ いとをかし

問29 傍線部③「その身のほどにある」とはどのようなことをあらわしているか、説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。

- ア 蚊の羽音が、その体の大きさと同じように小さいということ。
 イ 蚊の羽音が、その体の大きさに似合わず大きいということ。
 ウ 蚊の羽音が、作者の体のかなり近くで聞こえるということ。
 エ 蚊の羽音が、作者の体からかなり遠くに感じるといふこと。

- 問 30 傍線部④「さし出でて、われひとりさいまくる者」の現代語訳として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。
- ア 意地が悪くて、自分の嫌いな人の悪口ばかり言う人
- イ おせっかいで、自分以外の人に説教を続ける人
- ウ せっかちで、会話をすぐに打ち切つていなくなる人
- エ 出しゃばりで、自分ひとりのことを話しまくる人

- 問 31 傍線部⑤「見入れ」の動作主として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。
- ア 蚊
- イ 車の主
- ウ 子ども
- エ 作者

- 問 32 作者の気に入らないものとして**適当ではないもの**を次の中から一つ選び、マークしなさい。
- ア 寝ようとしているときに聞こえる蚊の羽音
- イ ぎいぎいうるさい音を立てる車に乗っている人
- ウ 作者の家にちよつと遊びに来た子どもや童べ
- エ 人の家に入りこんで家の中を散らかす子ども

- 問 33 本文が収録されている章段の題名として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。
- ア はしたなきもの
- イ にくきもの
- ウ うつくしきもの
- エ かなしきもの
- 問 34 この文章の作者として最も適当なものを次の中から一つ選び、マークしなさい。
- ア 小野小町
- イ 和泉式部
- ウ 清少納言
- エ 紫式部

※ 問題はこれで終わります。